

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-31

学校名・団体名	高岡市立成美小学校
HPアドレス	<a href="http://seibi-e.el.tym.ed.jp/">http://seibi-e.el.tym.ed.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさとの未来を担う子供の育成 ～成美型ESD～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>東日本大震災以後、将来の日本の未来を担う子供をどう育てるのかを問われている。全教育活動をESD（持続可能な開発のための教育）の視点で見直し、教育課程に位置付けてESDの推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各学年の発達段階、児童の興味・関心に沿ってテーマを選定し、単元を構想する。今だからこそ学ぶ価値があり、子供が学びがいを感じられる単元を構想する。</li><li>・関わり、つながりを大切にし、地域人材、地域文化を生かした活動を通して思いやりや郷土を愛する心の育成を図る。</li><li>・各学年の特徴を生かした取組を展開する。各々の取組を発表する場として保護者、地域の人を招待して「成美っこ集会」を開き、温かな交流の中で、表現力、コミュニケーション力の向上を図る。</li></ul>	

ふるさとの未来を担う子供の育成 ～成美型E S D～

(1) 活動時期 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

(2) 活動内容

① 第3学年「ぼくたち・わたしたちの町、大発見！」

社会科と総合的な学習の時間(以下、総合)の関連を図り、地域の「すてき」を見付ける活動を継続して行った。獅子舞を継承するために尽力する人や地域住民同士の交流を活発にする公民館活動のお世話をする人など、自分の地域を愛し、支える人々との出会いがあった。2学期には、「成美のすてき大発見報告会」を開催した。児童から総合でお世話になった方に招待状を送ったところ、たくさんの方が参観して下さった。3学期には、体験したこと、そこで考えたことを写真と文章でまとめて一人一人がパンフレットを作り、保護者や地域の人へと発信した。

② 第4学年「成美小 環境未来プロジェクト」

夏休みに向けて行う「環境チャレンジ 10」をきっかけに、身近な環境を守るためにできることを考え実践した。2学期には、節電の呼びかけ、アルミ缶の回収・リサイクル、使用済み割り箸の回収等、児童の発想を大切にしたい取組を行った。特に、割り箸回収は地域住民に直接働きかける活動を行い、たくさん割り箸を集めることができた。割り箸の原料となる木材を生み出す森林の中での活動も行い、自然の恵みを受けて私たちの生活が成り立っていることを実感した児童らである。

これらの体験は、将来、地球温暖化という課題を自分事として受け止め主体的に周囲に働きかける資質・能力の向上につながると考える。

③ 第5学年「歴史都市高岡 伝統受け継ぎ隊」

本市は「日本遺産」の町に認定され、北陸新幹線開業と相まって多くの観光客が本市を訪れている。歴史や伝統の溢れる町であるが、そのよさに気付いていない児童もいた。そこで、本市独自の教科「ものづくり・デザイン科」と総合的な学習の時間の関連を図り、本市の魅力、よさ、可能性を考える場をもち、地域振興のために自分にできることを実践した。年間を通じて市内の史跡や歴史的建造物の見学、それらを支える人へのインタビューなどを繰り返し行い、10月には北陸新幹線の体験乗車を行った。その後、自分が見つけた本市の魅力を市内外の人に発信するため、パンフレット作りや「高岡の魅力」発表会を行った。

④ 第6学年「未来プロジェクトS ～「命」のために自分にできること」

東日本大震災を教訓に、自分たちの身の回りの人々の命を守るためにできることを考え、実践していった。8月には、校区の総合防災訓練に進んで参加し、その経験を基に、9月に6年生が中心となって児童による避難訓練を行った。全校を巻き込んでの全校防災会議も随時行った。地域の高齢者や保育園児への働きかけの場を設定し、守られる側から守る側へと児童自らが視点を変えていった。

一方で、福祉活動にも力を入れた。4月25日のネパール大地震発生の際、6年の児童はいち早く募金活動を行い、県内のネパール文化交流協会の方を本校に招待し集まった募金を手渡した。東北の被災地を支援するための募金活動等にも継続して取り組んだ。

⑤ 東北交流訪問 (11月)

本校は、東日本大震災以降、本校教員が被災地支援ボランティアで訪れた岩手県陸前高田市広田地区の人々と交流を続けている。児童会では、募金活動で集めた義捐金や学校花壇で育てた花で草木染めを行い制作したハンカチ、米づくり体験で収穫したお米の配達を継続してきた。この活動を始めた当初は、本校の教員が広田地区を訪問し、児童のメッセージカードや義捐金、義捐米等を届けていたが、今年度は、代表児童による交流訪問が実現した。

実際に代表児童が被災地を訪れたことで、被災者が今まで一度も表出しなかった自分の思いを語るなど、成果があった。

⑥ 「成美っこ集会 (東北交流訪問報告集会)」(1月)

手と手をつなぐことで、一人ではできないことも実現することができる。東北交流訪問に向けて、代表児童だけでなく、全校児童全員で被災地の人々のためにできることを考え実践していった。自分たちの活動を支えて下さった地域の人を招待し、代表児童が交流訪問の活動報告を行った。

(3) 成果と課題

- ・ 地域の特色や児童の実態に応じた単元開発が行われた。
- ・ 全校児童で取り組むことができる活動内容を考え、実践することができた。
- ・ 教員の異動等で構成メンバーが替わっても、本校ならではのE S Dを推進できるよう、本校の教育理念を共有する場を設定していく。

(4) 児童への効果

- ・ 進んで身の回りの事象(人、こと、もの)に働きかけようとする態度が育った。自分たちの活動を認められる体験を積むことで少しずつ自己有用感を高めている。